

コンヴェンション×現代美術

Four Dialogues:

Contemporary Artists collaborate with the Collection



多分、展覧会だっ

SAITO Koheita
TAMURA Yuichiro
HASUNUMA Masahiro
MIKAME Reina

アメダオ・セザリアーニ
ジョナサン・ボロフスキ
マリア・ア・イシエス
アン・ド・ラ・ポル・ジョー

齊と公平太
田村友一郎
蓮沼昌宏
三井瓶玲奈

1月9日 2026
3月8日

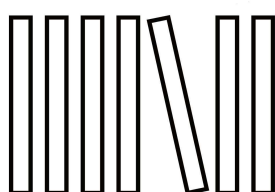
開館時間
9:30-17:00
金曜日は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日：月曜日
(ただし、1月12日[月・祝]
2月23日[月・祝]は開館)
1月13日[火]
2月24日[火]

観覧料	当日	前売・団体
一般	1,700円	1,500円
大学・高校生	900円	700円
中学生以下	無料	

販売場所
販売期間
販売時間

※チケットは、名古屋市美術館のホームページで販売しています。
※チケットは、名古屋市美術館のホームページで販売しています。
※チケットは、名古屋市美術館のホームページで販売しています。



名古屋市美術館

Nagoya City Art Museum



芸術と科学の杜

〒460-0008 名古屋市中区港2-17-25
TEL:052-212-0001 FAX:052-212-0005
https://art-museum.city.nagoya.jp/

主催：名古屋市教育委員会、名古屋市美術館、パステル
後援：名古屋市立小中学校PTA協議会、協力：名古屋市交通局

コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる4つの対話

アートの最前線に立つ作家たちは、名古屋市美術館をどのように見るのでしょうか？本展では、愛知にゆかりのある、斉と公平太・田村友一郎・蓮沼昌宏・三瓶玲奈の4人が、美術館のコレクションと対話しながら、新作とともに展示空間をつくります。コレクションやその背景にある歴史などの要素に、4人がそれぞれの視点・方法でアプローチすることで、作品や美術館の新たな側面が見えてくることでしょう。また、見る人が、各作家の視点を通してコレクションを見ることで、作家×コレクションの対話から、コレクション×鑑賞者、鑑賞者×作家、鑑賞者×作品へと、豊かな対話が広がることでしょう。

展覧会のみどころ

1. 全国的・国際的に活躍する作家の新作を展示！

愛知にゆかりがあり、全国的・国際的な活躍を見せる現代美術作家の新作を展示します。名古屋市美術館の空間に作家の新作を合わせたインスタレーションをご覧ください。

2. 新たな視点により名古屋市美術館のコレクションの魅力を新発見！

モディリアーニ《おさげ髪の少女》や桑山忠明の作品、ボロフスキーの立体作品などの名古屋市美術館を代表するコレクションを作家4人がそれぞれの視点から、再解釈し、展示空間を作ります。普段とは異なる視点でコレクションを見ることで、新たな魅力を発見できるでしょう。

3. これまでにないイベントを各種開催予定！

名古屋市美術館でこれまでに行われなかったようなイベントを開催します。開幕前には美術館を飛び出し、出品作家の蓮沼昌宏の提案で、地下鉄名古屋駅に設置されている高松次郎の壁画の調査・清掃プロジェクトを、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所と名古屋市美術館の共同研究として行います。

また、数種類の斉と公平太オリジナルグッズのプレゼントキャンペーンや、田村友一郎の映像限定公開などの今までとは一味違うイベントを開催予定です。

作家紹介

斉と公平太（さいと こうへいた）×アメデオ・モディリアーニ

1972年 愛知県生まれ

1995年 名古屋造形芸術大学（現・名古屋造形大学）美術科2類卒業

2009年 作家名を齋藤公平から斉と公平太に変更

現在 愛知県在住

「LOVE ちくん」「ART くん」「オカザえもん」など、多くの人に響く作品を生み出しながら、「美術」を取り巻く制度や環境を批判的に見つめる。本展では、アメデオ・モディリアーニに対する個人的なリサーチとその結果を展示空間にそのまま提示し、作家や作品の受容、作家と作品の関係性を問う。

斉と公平太《「モディリアーニのおさげ髪の少女」の模写》（制作風景）2025年、作家蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

2005年 「第8回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞受賞

2010年 「あいちトリエンナーレ 2010」まちなか会場、愛知

2015年 愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞

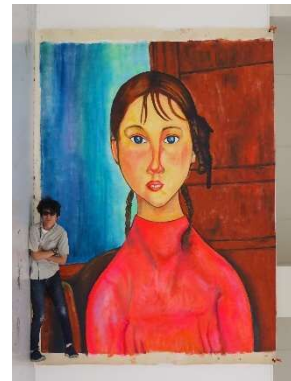
2019年 「アイチアートクロニクル 1919-2019」愛知県美術館

2022年 「愛知県美術館コレクション展」愛知県美術館

※アメデオ・モディリアーニの作品は
地下1階の常設展示室に展示予定



アメデオ・モディリアーニ
《立てる裸婦(カリアティードのための習作)》1911-12年、
名古屋市美術館蔵



アメデオ・モディリアーニ
《おさげ髪の少女》1918年頃、
名古屋市美術館蔵

田村友一郎（たむら ゆういちろう）× ジョナサン・ボロフスキー

1977年 富山県生まれ

2003年 日本大学芸術学部写真学科卒業

2010年 東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了（メディア映像学）

2013-14年 ベルリン芸術大学空間実験研究所 オラファー・エリアソンクラス在籍

2017年 東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了（メディア映像学）

2019年 名古屋芸術大学美術領域現代アートコース准教授

現在 京都府在住

特定のテーマや既存のイメージを起点に様々な着想源から関係性や物語を構築し、写真や映像、インスタレーションなどの多様なメディアを用いて、現実とフィクションが交錯する世界を生み出す。本展では、ジョナサン・ボロフスキー《フライングマン》を起点に、ジョナサン・ボロフスキー本人とのメールでの対話を通して得られた認識の具体化を試みる。



田村友一郎《TiOS》（「未完の始まり：未来のウンダーカンマー」、豊田市美術館、インスタレーション）、2024年、豊田市美術館蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

2011年 第14回文化庁メディア芸術祭 アート部門優秀賞受賞

2018年 個展「叫び声/Hell Scream」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2022年 国際芸術祭「あいち 2022」常滑市、愛知

2024年 個展「田村友一郎 ATM」水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城

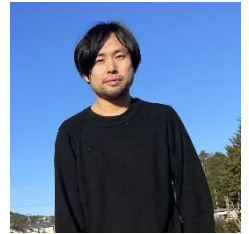
2024年 「阪神・淡路大震災 30年 企画展 1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」
兵庫県立美術館

ジョナサン・ボロフスキー《フライングマン》
1981-83年 名古屋市美術館蔵



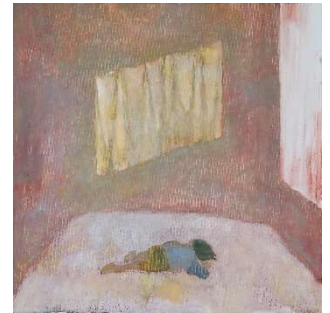
蓮沼昌宏（はすぬま まさひろ）×マリア・イスキエルド、高松次郎

1981年 東京都生まれ
2005年 東京藝術大学美術学部絵画科卒業（油画）
2007年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了（美術解剖学）
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了（美術解剖学）
現在 長野県在住 名古屋芸術大学非常勤講師



絵画・キノーラ装置を用いたアニメーション・写真など、さまざまな手法を用い、自身が見て、体感したことから物語をつむぎ出す。本展では、メキシコのシュルレアリスム画家マリア・イスキエルドの作品と、近年取り組んでいる影絵や絵画とを交差させ、物語や夢、イメージの自律性について思考する。

また、2025年の「横浜トリエンナーレ」で高松次郎の壁画の再制作を行った経験から、地下鉄東山線・桜通線名古屋駅にある高松次郎の壁画《イメージスペース・名古屋駅の人々》に注目し、作家の発案により、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所と名古屋市美術館の共同研究として、本展開幕前に壁画の清掃・調査を行う。



蓮沼昌宏《カーテンが映る部屋》
2025年、作家蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

2003年 「鳩とのフィールドワーク」 伽羅舎、東京
2005年 「横浜トリエンナーレ 2005 高松次郎 “工事現場の塀の影” 作品再制作プロジェクト」、神奈川
2019年 「DOMANI・明日展」 国立新美術館、東京
2021年 「ふへほ展」 アートラボあいち、愛知
2023年 「こまきくるくる文庫 歩く 歩く 歩く 歩く 転ぶ 歩く展」
小牧市中央図書館、愛知
2023年 「Art Obulist 2023 蓮沼昌宏展 走馬灯と消防」 旧消防署共長出張所、愛知



高松次郎《イメージスペース・名古屋駅の人々》
1989年、地下鉄東山線・桜通線名古屋駅

三瓶玲奈（みかめ れいな）×桑山忠明、アンディ・ゴールズワージー

1992年 愛知県生まれ
2015年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
2017年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了
現在 静岡県在住。東京都、静岡県を拠点に活動。

対象を見ること、モチーフを取り巻く環境や現象を絵画に定着させることについて深く思考しながら作品を制作する。本展では、桑山忠明が作品にうつす人工物による光の現象、アンディ・ゴールズワージーの自然による現象と、三瓶が作品にとらえる現象とが交差する展示空間を構成する。



展覧会・受賞歴（抜粋）

2016年 個展「投影」 Yutaka Kikutake Gallery、東京
2017年 個展「project N 69 三瓶玲奈」 東京オペラシティアートギャラリー
2019年 「アーツ・チャレンジ 2019」 愛知芸術文化センター、愛知
2020年 「VOCA展 2020 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」 上野の森美術館、東京
2021年 公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田文化新人賞
2024年 「Drawing with the Light」 The Reference、ソウ

三瓶玲奈《The Face》 2025年、作家蔵
Courtesy of the artist and Yutaka Kikutake Gallery、
撮影: Kenji Takahashi



桑山忠明 《無題》1978-79年 名古屋市美術館蔵

開催要項

- (1) 展覧会名 コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる 4 つの対話
Four Dialogues: Contemporary Artists collaborate with Collection
- (2) 会 期 2026 年 1 月 9 日 [金] – 3 月 8 日 [日] [51 日間]
- (3) 休 館 日 月曜日（1 月 12 日 [月・祝]・2 月 23 日[月・祝]は開館）
、1 月 13 日（火）、2 月 24 日（火）
- (4) 開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時、金曜日は午後 8 時まで
（いずれも入場は閉館の 30 分前まで）
- (5) 会 場 名古屋市美術館 企画展示室 1・2
- (6) 主 催 名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、メ～テレ
- (7) 後 援 名古屋市立小中学校 PTA 協議会
- (8) 協 力 名古屋市交通局
- (9) 観 覧 料 一般 1,700（1,500）円、高大生 900（700）円、中学生以下無料
（ ）内は通常前売・20 名以上の団体料金
- (10) 公式サイト <https://art-museum.city.nagoya.jp/>

(11) 関連催事等

① 開幕前事業 高松次郎壁画 調査・清掃プロジェクト

高松次郎の再制作プロジェクトに携わった経験のある蓮沼昌宏の提案から地下鉄東山線・桜通線名古屋駅に設置されている高松次郎の壁画の調査・清掃プロジェクトを実施します。壁画の調査は、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所と美術館の共同研究として行います。当プロジェクトには蓮沼昌宏も参加します。

1989年の設置から約35年。世界的アーティストの最大級の壁画に再注目です！

日時：11月11日（火）～13日（木） 午前10時～午後4時を予定

作品：高松次郎《イメージスペース・名古屋駅の人々》1989年

大きさ：縦217cm×横6,238cm

場所：名古屋駅桜通線西開札口と西中改札口の間の通路



高松次郎《イメージスペース・名古屋駅の人々》
1989年、地下鉄東山線・桜通線名古屋駅

② 開幕イベント ギャラリーツアー ※プレス撮影・取材が可能です。

4人の作家自らが、作品の前でギャラリートークを行います。作品の詳細や制作過程の裏話等、ここでしか聞けない話を聞くことができます。

日時：1月9日（金）

15:00-16:00 プレス開放（作家への取材・撮影可能）

16:00-17:00 ギャラリートーク（プレス撮影可能）

会場：名古屋市美術館 企画展示室

参加費：無料（ただし、聴講には展覧会観覧券〔観覧済みの半券も可〕が必要です）

※ 通常、開幕前日に行っている内覧会に代わり、実施いたします。

③ アーティストトーク

4人の作家が一堂に会し、トークを行います。普段は交わらない4人が対話することにより、どのような化学反応が起きるのでしょうか？

聞き手として、美術評論家で名古屋造形大学教授の高橋綾子氏をお呼びします。

日 時：1月10日（土）13:30-

登壇者：斉と公平太・田村友一郎・蓮沼昌宏・三瓶玲奈

聞き手：高橋綾子（美術評論家、名古屋造形大学教授）

会 場：名古屋市美術館 2 階講堂

定 員：180 名（当日先着順、定員になり次第締切）

参加費：無料（ただし、聴講には展覧会観覧券〔観覧済みの半券も可〕が必要です）

④ 田村友一郎×ジョナサン・ボロフスキー 映像限定公開

当館で 1995 年に行われたジョナサン・ボロフスキーの講演会映像の一部を、田村友一郎の監修のもと公開します。名古屋市美術館のロビーを飛ぶ《フライングマン》の作家・ボロフスキーが、観客と対話する姿をご覧ください。

日 時：2月21日（土）～2月23日（月・祝）午前9時30分～午後5時

会 場：名古屋市美術館 2 階講堂

※鑑賞には、展覧会観覧券〔観覧済みの半券も可〕が必要です。

⑤ 斉と公平太 グッズプレゼントキャンペーン

展覧会をご覧いただいた方に、斉と公平太オリジナルグッズを無料で配布します。

詳細は、美術館公式サイト・美術館 X でお知らせします。

※展覧会・イベントに関する最新情報は、当館の公式サイトにてお知らせします。

「コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる 4 つの対話」

広報用画像の提供について

特別展「コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる 4 つの対話」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームはこちら

→<https://logoform.jp/form/mX9C/1302712>



● 展覧会をご紹介いただく場合

- ・ 本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。
- ・ 掲載、放送後は掲載誌、または同録データもしくは DVD 等を 1 部お送りくださいますようお願いいたします。WEB サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

● 画像掲載について

- ・ 画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。
- ・ ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いいたします。画材の表記についてはスペースがない場合は省略可とします。
- ・ 画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・ 以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。
- ・ 画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

● 読者プレゼントの提供について

- ・ 本展をご紹介いただく場合、ご希望があれば本展招待券を貴媒体読者プレゼント用に提供します(5 組 10 名様まで)。専用フォームにてお申し込みください。

● 展覧会の取材・撮影について

- ・ 本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。


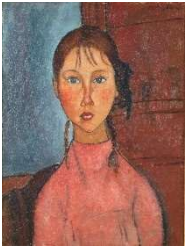






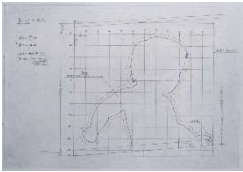






【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館（広報担当）

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005

メール：ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

特別展「コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる4つの対話」広報用画像一覧

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 
<p>④</p> 	<p>⑤</p> 	<p>⑥</p> 
<p>⑦</p> 	<p>⑧</p> 	<p>⑨</p> 
<p>⑩</p> 	<p>⑪</p> 	<p>⑫</p> 
<p>⑬ チラシ表</p> 	<p>⑭ B3 ポスター</p> 	<p>⑮ ロゴデザイン</p> 

特別展「コレクション×現代美術 名古屋市美術館をめぐる 4 つの対話」
作品キャプション一覧

・画像掲載時には必ず作品キャプションを併記ください。

①	齊と公平太 《「モディリアーニのおさげ髪の少女」の模写》（制作風景）2025 年、作家蔵
②	アメデオ・モディリアーニ 《おさげ髪の少女》1918 年頃 名古屋市美術館蔵 ※常設展示室に展示予定
③	アメデオ・モディリアーニ 《立てる裸婦(カリアティードのための習作)》1911-12 年、 名古屋市美術館蔵 ※常設展示室に展示予定
④	田村友一郎 《見えざる手》国際芸術祭「あいち 2022」、常滑市、インスタレーション、2022 年／ ワールド・クラスルーム、森美術館、2023 年
⑤	田村友一郎 《TiOS》（「未完の始まり：未来のヴァンダーカンマー」、豊田市美術館、インスタレー ション）、2024 年、豊田市美術館蔵
⑥	ジョナサン・ボロフスキー 《フライングマン》1981-83 年 名古屋市美術館蔵
⑦	蓮沼昌宏 《カーテンが映る部屋》2025 年、作家蔵
⑧	蓮沼昌宏 《光と影》2025 年、作家蔵
⑨	高松次郎 《「イメージの空間：名古屋駅の人々」のための構想ドローイング 15》1989 年、名古屋 市美術館蔵 © The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates, Tokyo, Pace Gallery, New York and Stephen Friedman Gallery, London
⑩	三瓶玲奈 《The Face》2025 年、作家蔵 Courtesy of the artist and Yutaka Kikutake Gallery、撮影: Kenji Takahashi
⑪	三瓶玲奈 《色を見る》2020 年、株式会社プラス蔵 Courtesy of the artist and Yutaka Kikutake Gallery、撮影: Kenji Takahashi
⑫	桑山忠明 《無題》1978-79 年 名古屋市美術館蔵
⑬	展覧会メインビジュアル ※クレジット表記不要
⑭	展覧会メインビジュアル ※クレジット表記不要
⑮	展覧会メインビジュアル ※クレジット表記不要

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

4 人の作家の視点で名古屋市美術館のコレクションを解釈し、所蔵作品と新作を組み合わせ、展示空間を構成する。

【100 文字程度】

愛知にゆかりがあり、全国的・国際的な活躍を見せる齊と公平太・田村友一郎・蓮沼昌宏・三瓶玲奈の 4 人が、それぞれの視点・方法で名古屋市美術館のコレクションを解釈し、作家の新作を組み合わせ、展示空間を構成します。

【200 文字程度】

齊と公平太・田村友一郎・蓮沼昌宏・三瓶玲奈の 4 人が、それぞれの視点・方法で名古屋市美術館のコレクションを解釈し、作家の新作と名古屋市美術館のコレクションを組み合わせ、展示空間を構成します。普段とは異なる視点で見るコレクションに新たな魅力を発見するとともに、作家×コレクションの対話から、コレクション×鑑賞者、鑑賞者×作家、鑑賞者×作品、さらにその先へと、豊かな対話が広がっていくことを期待します。